

4月の東北～関東の太平洋側での低温は、冷たい北東気流がこの低温で助長されたためと考えられる。

(7) 最近の日射量の推移

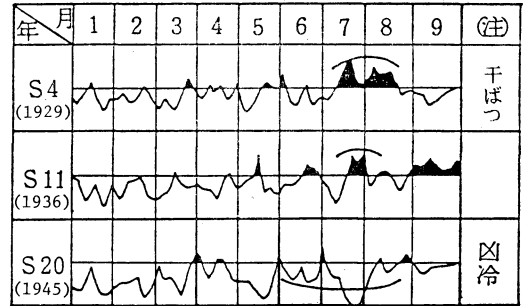
メキシコのエル・チチヨン火山噴火(昭和57年3～4月)の日射量への影響は、日本の場合、全国的にみると、直達日射量は57年12月から58年1月に最低(平年より約18%減)を記録し、その後回復傾向をたどりつつあるが、現在に至るまで、なお平年より少ない状態(8～9%減)で経過している。

なお、全天日射量は北日本及び南西諸島の一部では減少しているが、その他の地点では増加している所もあり、全国的傾向は明確でない。

3. その他関連事項

(1) 台風第1号の発生が遅れたことについて

昨年、台風の発生が遅く6月25日に東支那海で第1号が発生したが、この理由について、エル・ニーニョ現象とそれに伴う西太平洋海域の低海水温が話題になった。本年も6月9日にやっと台風第1号が発生した。5月下旬の赤道付近の状況は、台風を発生させる熱帯収束帯は北半球側に形成されているものの平年に比べて南偏し赤道付近にある。熱帯収束帯が北半球側で顕著になるためには、南半球から北半球に吹きこむ風系が形成され



第3図 天候の類似年の気温経過(仙台)。

なければならない。

(2) 過去の寒冬に続く冷春年のその後の状況

今冬～今春のような気温経過を示した年(第3図参照)をみると、6月以降一時的に並～やや高温になった時期もあるが、その後また低温期も現れ変動が大きかったのが特徴である。

(3) 日本近海の低海水温

日本近海の低水温現象は少なくとも1～2か月、場合によっては夏季までも続くおそれがある。今後夏にかけて海霧の発生が多く、また北東風が吹く場合には陸上の天候への影響が懸念される。

第10回「リモートセンシングシンポジウム」開催のお知らせ

期 日：昭和59年11月5日(月)、6日(火)
 会 場：国立教育会館(東京都千代田区霞が関 3-2-3)
 講演申込締切：昭和59年7月31日(火)
 講演申込方法：A4版の用紙に 1) 題目、2) 発表者氏名(登壇者に○印)および勤務先、3) 登壇者の氏名、連絡先と所属学協会名、4) 400字以内の概要、5) 希望するセッション名(下記参照、複数も可)、6) 原稿枚数(2ページか4ページ)の指定を記入のうえお申し込みください。申込者には指定原稿用紙をお送りします。
 一般セッション名：
 計測システム：センサ(可視光、近赤外線、中間赤外線、マイクロ波、レーザー)、プラットフォーム、記録方式(PCM, FM, 写真など)、計測機器とその校正など。
 データの収集および補正：通信、伝送、前処理(ひずみ補正、大気効果補正)、グランドトゥルス

など。
 データ解析システムと手法：分類手法、テキスト解析、光学処理、視覚判読手法など。
 応 用：環境、都市、資源、地質、農林、水産、海洋、河川、火山、地熱、気象、防災、測量など。
 講演の予稿集：講演時間は1件あたり20分とし、予稿集はオフセット印刷で1論文1,480字詰原稿用紙2ページまたは4ページとなります。
 講演原稿の締切：昭和59年10月1日(月)
 参加費(予稿集代金)：当学会および協賛学協会会員 5,500円、学生 3,500円、一般 6,500円
 講演申込先：〒113 東京都文京区本郷1-35-28-303
 (株)計測自動制御学会
 リモートセンシングシンポジウム係
 TEL. (03) 814-4121